

諏訪地方の 経済概況 速報

2020.09

2020年8月末調査／2020年9月25日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

諏訪地方の概況

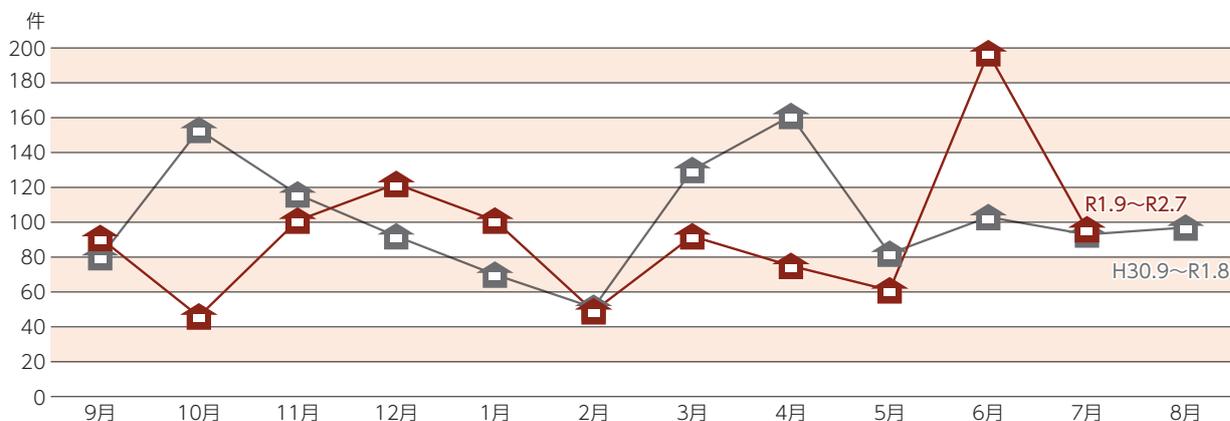
内閣府発表の2020年4～6月期の国内総生産（GDP）改定値は、年率換算で28.1%減となり、リーマン・ショック後の2009年1～3月期を超える戦後最悪の下落を記録した。新型コロナウイルスの感染拡大が及ぼす影響は甚大で、幅広い業種で収益が落ち込んだ。8月に入っても状況は厳しく、各種支援施策などで一時持ち直しの動きもあった個人消費は、緊急事態宣言解除とともに感染が再拡大したことや天候不順で足踏み状態となった。

コロナ禍は依然、諏訪地方でも続いている。製造業は一部業種で回復の兆しがあるものの、多くの業種は低調に推移している。特に観光業は、夏場の書き入れ時のタイミングで起きた第2波に苦戦した。感染防止対策や各種支援施策もあって、第1波より落ち込みは少ないものの、高単価が見込める諏訪湖上花火大会などの大型イベントが中止となり、年間の資金繰りへの懸念も出ている。

（諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ）

		実数	前年同期比	
有効求人倍率【7月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.03倍	△0.47ポイント	
手形交換高【8月】（諏訪手形交換所扱）	枚数	3,283枚	0枚	
	金額	5,171百万円	579百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	1枚	1枚
		金額	115千円	115千円
車庫証明取扱件数【8月】（諏訪地方合計）		765件	0.4%	
新設住宅着工戸数【2020年4月～7月】（諏訪管内）		418戸	△4.8%	

■新設住宅着工件数の推移（諏訪地方合計）



製造業

「半導体関連が回復傾向」

政府が公表した8月の月例経済報告では、輸出と生産の判断が2ヵ月連続で上方修正された。輸出は米国向けが底打ちし、中国向けも増加した。生産も自動車を中心に一部持ち直しの動きが見られるとした。ただ、企業収益の悪化を受け、設備投資は4ヵ月連続で「弱含んでいる」という判断だった。日本工作機械工業会発表の8月の工作機械受注額は、3ヵ月連続で減少率が低下した。政府による補助金の手厚い中国のインフラ投資や自動車向けが全体をけん引した。しかし、国内では設備投資を抑制する動きが続き、国内向け受注はわずかな改善だった。

諏訪地方では、医療機器や半導体製造装置関連は比較的堅調に推移しているが、依然低調に推移している業種が多い。自動車関連は、メーカーによって温度差があり、急速に回復するメーカーの一方で、停滞しているメーカーもあり、諏訪地方の企業に影響を及ぼしている。

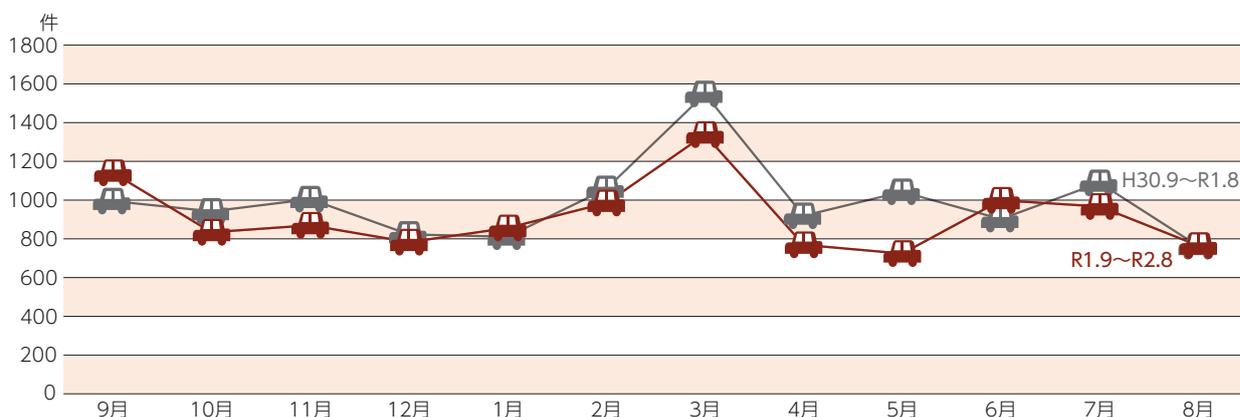
金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	半導体業界向けは復調傾向だが、ほかは減少傾向。板金加工業界の受注量は落ち込んだまま推移し、量産物の受注のロット数が減って、不採算になったケースもある。コロナを機に、新製品の開発の試作案件が急増しているが、試作どまりで量産にならないことが多い。自動車業界向けはメーカーにより受注状況はまちまち。工作機械向けは回復が遅れている。
一般機械 工作機械、専用機械、省力化機械、検査機械など	省力化機械や自動機の一部は半導体や物流、食品関連などで受注が伸びているが、全般的に設備投資が抑えられているため、低調なまま横ばいの企業が多い。諏訪地方の企業の取引先には、コロナ禍で予定案件を先送りしたり、見直したり、今年度の設備投資を計画的に減少させる企業が見られ、対応が難しくなっている。工作機械も苦戦が続くが、引き合い案件は徐々に動き始めているとする企業もある。自動車関連の省力化機械の引き合いも出ている。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	半導体製造装置部品の5G関連の受注は安定しており、大手メーカーからの受注が増加しているが、米中対立で中国向けが減少する可能性もある。米国大統領選と米中関係の動向が、受注量に大きく影響するとみる企業もある。EV電池は好調を維持し、プリンター関連は依然低調な動きとなっている。プリント基板は消耗品の需要が落ち、動きが鈍くなっている。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連はメーカーによって異なるが、3ヵ月後には例年並みまで回復する見通しの企業がある。一方で大幅な受注減少の企業もあり、差が開いている。船外機は、新型コロナウイルスで落ち込んでいた北米のレジャー需要が戻り、順調に回復してコロナ前までに近づいている。欧州ではロックダウン解除後、公共交通機関から自転車への移行が進み、補助金もあるため、自転車製造が好調な動きを見せている。建機、農機部品に大きな変化はない。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	コロナ禍で総体的に受注は減少しているが、医療機器関連やATM監視カメラなど高性能なレンズの受注は旺盛。米国の治安悪化でライフルスコープ関連の受注が増加した。また、コロナ禍でオンラインシステムが進み、今後、テレビ会議用機器の需要が高まるとみられる。医療機器に使う圧力計部品は、コロナ特需で増産傾向となり、自動車関連光学部品にも回復の動きが見られる。
製造業（その他）	新型コロナウイルスによる内食需要の高まりで、漬物はスーパーなどで受注が増加している。長雨や高温で葉物野菜の品質や価格に影響が出ていたが、盆明けから落ち着いてきた。みそは、7月に長雨と気温低下で需要が伸びたが、8月は猛暑となり、例年並みの夏場の落ち込みとなった。9月以降はみその需要期に入る。ただ、中国の有機大豆相場が高騰し、来期以降への影響が懸念される。材料加工は、半導体業界向けを中心とした電機関連が安定し、全体の落ち込みは少ない。

商 業 「コロナと猛暑が夏商戦に影響」

内閣府発表の8月の消費者態度指数は4ヵ月ぶりに前月を下回った。新型コロナウイルス感染の再拡大が、消費者心理の重荷となっている。例年は旅行や帰省が多い盆時期に、今年は人の移動が低調で、個人消費の回復の足踏みが続いている。また、梅雨が長引き涼しかった7月から一転、8月は猛暑日が続いた。諏訪では月平均気温が25.6度で、2010年と並び1945年の統計開始以来、観測史上1位だった。最高気温も25年ぶりに35.0度まで上昇した。天候不順は、農産物の品質低下や小売店の仕入れ値高騰を招いた。一方で、例年8月には需要が低下するエアコンや扇風機など、巣ごもりでも涼しく過ごせる商品の動きが好調で、例年とは異なる夏商戦となった。

大型店	行楽客の減少やイベントの中止の影響を受ける中、振興券など各地域の支援策効果で、来店客数や売上が伸びた。まとめ買い傾向は続いている。市町村の祭りや花火大会が中止になったことから、家庭用の花火の売上が増加した。
食料品	天候不順の影響で、一時ほとんどの野菜が高騰した。猛暑でアルコールを含む飲料の売行きは好調だった。
家電	振興券利用者にキッチン用品が人気の地域があり、炊飯器や電子レンジなどが売れた。パソコンやプリンターなども需要が続いている。
自動車	諏訪地方の8月の車庫証明件数は765件で、前年同月比で0.4%増加した。
飲食店	企業などの多人数予約がほとんどなく、帰省客の減少や夏休みの短縮などで前年に比べて大幅に来店客が減少した。
生花店	生花を扱う食品スーパーやホームセンターが増え、生花店での購入機会は減少傾向となっている。反面、ネット販売は好調。
エネルギー販売	ガスは平均気温の上昇や新型コロナウイルスで商業用、工業用の販売量が減少している。ガソリン、重油、軽油の販売量も減少した。
靴店	企業支援の商品券で高額商品を購入する客が増加した。
イベントホール	高齢者には集会を避ける傾向が強く、葬儀も少人数の家族葬が主体となっている。新型コロナウイルスの影響は多大で、業界全体で厳しい状況が続く。
書店	全般的にコロナ禍のステイホームで業況は上振れしている。文芸書、小説、コミックに加え、夏休み自由研究書、工作キット(クラフト)の売れ行きが良かった。例年発売されるアイドルグループの握手券付きCDは発売されない。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「第2波の中、支援策が下支え」

各地の宿泊者数は支援施策の下支えがあって4月比で増加しているが、前年同月には及ばない状況が続いている。政府のGoToトラベルは東京都が除外され、第2波と重なり、効果が縮小した。一方、県内客が増加したディスカバー信州や各市町村の支援施策は、効果が大きいと感じる施設が多い。盆期間は感染再拡大の影響で帰省客が例年より少なく、夏休みも短縮で家族連れも減少した。依然、観光バスが稼働しないため、比較的大きい施設が苦戦している。団体旅行が消滅し、個人客しかターゲットがないため、営業の継続を懸念する施設もある。ただ、感染状況や対策が不明確で休業した第1波に比べ、感染防止対策などを実施している第2波の方が動きはあった。

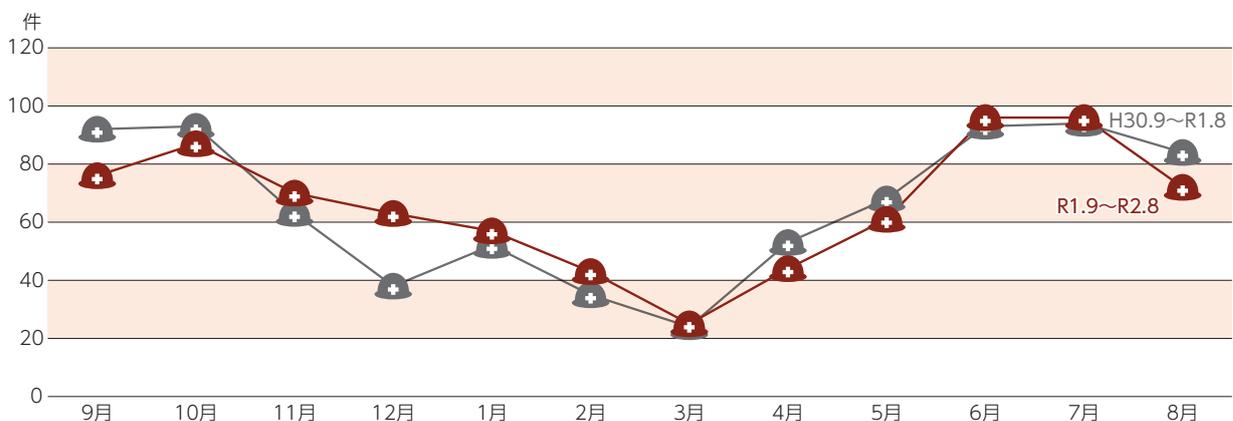
上諏訪温泉	湖上花火大会・新作花火大会の中止で特別日単価による売上高が大幅減少。秋は団体旅行の受け入れシーズンだが、工業メッセ、諏訪湖マラソン、神社大会も中止となり宿泊者の確保が困難になっている。
下諏訪温泉	8月はピークを迎えることなく終わった。イベント中止はダメージが大きい。コロナと共存の怖さがあり、第2波の影響は大きい。
蓼科・白樺湖・車山・富士見等	昨年の冷夏と対照的に猛暑となり、支援施策もあって入り込み客はあった。ゴルフ場はコンペは少ないが、個人客が多い。夏場がピークの合宿はほとんどがキャンセル。例年はスキー予約が入る時期となるが、今年は動きが悪い。
諏訪大社	上社・下社合わせた8月の参拝者数は約5万9千人。前年同月比では約4万人、40.5%減少した。

建設業 「公共工事が減少傾向」

8月の市町村からの受注工事は合計72件、989百万円となった。前年同月に比べ件数は12件減少し、契約金額は80百万円減少した。国、県関係工事の2020年4月～8月の累計公共工事（地元業者受注分）は前年同期に比べ件数、契約金額とも減少した。民間工事は、諏訪地方の7月の新設住宅着工戸数が96戸で前年同月に比べ3戸増加（3.2%）した。2020年4～7月の累計では418戸で、前年同期より21戸減少（△4.8%）している。

公共工事	8月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、国関係3件、諏訪建設事務所6件、諏訪地域振興局農地整備課3件、同林務課1件、県施設関係1件、県警察本部1件の15件で、契約金額は1,448百万円だった。2020年4月～8月の累計は66件、4,065百万円で、前年同期比で件数は13件、契約金額は379百万円減少（△8.5%）した。市町村からの8月の受注工事は、建築工事4件173百万円、土木工事および下水道工事50件661百万円、その他工事18件155百万円だった。
民間工事	諏訪地方の前年同月と比べた7月の新設住宅着工戸数は、利用関係別で「持家」は3戸減少の59戸、「貸家」は2戸増加の29戸、「分譲」は3戸増加の7戸、「給与」は1戸増加の1戸だった。長野県内の7月の新設住宅着工戸数は993戸で、前年同月比17.4%減少した。持家は10ヵ月連続、分譲は5ヵ月連続の減少となった。

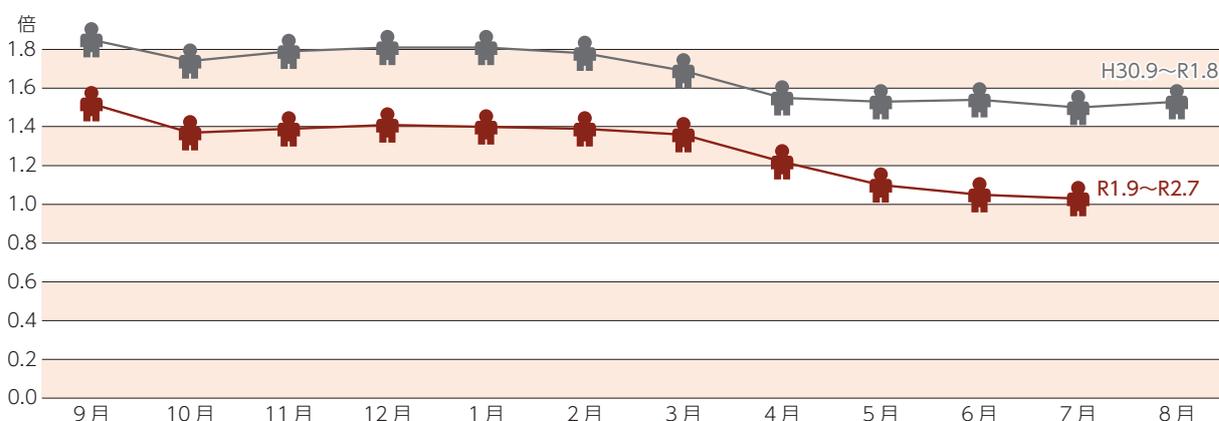
■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



諏訪地方の7月の有効求人倍率は、前年同月を0.47ポイント下回り、前月を0.02ポイント下回る1.03倍となった。1倍以上は76ヵ月連続しているが、16ヵ月連続で前年同月を下回っている。長野県平均は、前月を0.04ポイント下回る0.99倍で、6年7ヵ月ぶりに1.0倍台を割り込んだ。全国平均も前月を0.03ポイント下回る1.08倍だった。完全失業率は0.1ポイント上昇の2.9%で、2ヵ月ぶりに悪化した。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,252人で、前年同月比382人減少(△23.4%)した。求人の要因別は「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順。業種別前年同月比の新規求人数は、建設業と運輸業で増加したが、生活関連サービス・娯楽業で減少した。新規求職者数は771人で、前年同月比44人増加(6.1%)した。1件10人以上の人員整理は0件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は55人で前年同月より33人増加し、前月より25人減少した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 売上が落ちても収益が確保できる体制が、コロナ禍で確認できた(金属製品加工業)。
- 米中貿易摩擦による中国向けの受注減少が心配(電気機械製造業)。
- コロナ禍に不安はあるが、とりあえず受注が動き出しほっとした(輸送用機械製造業)。
- 求職者の中に、田舎への移住を希望する都心からの応募者がいた(輸送用機械製造業)。
- コロナ禍で時計が売れず、中国で腕時計の高級針の製造が一時ストップした(精密機械製造業)。
- 売上減少の中、補助金の利用や経費削減などできることを行う(精密機械製造業)。
- 公共工事は先が読めず、総理大臣交代後の動向が心配(建設業)。
- 酒の仕入れは最低限、食材は売り切れる量しか用意しない(飲食店)。
- 米中対立の激化が予想され、世界経済回復の見通しが立たない中、秋の自然災害、コロナ禍、政局の不安定、失業者の増加など厳しい状況が加速する(観光業)。
- 10月から東京が対象となるGoToトラベルにわずかながら期待する(観光業)。
- 複数の国内旅行プラン投入も催行最低人員が満たせず、キャンセルとなっている(旅行代理店)。

今月から毎回、株式会社小宮コンサルタンツCEO、小宮一慶氏のコラムを掲載します。小宮氏は企業規模や業種を超えた「経営の原理原則」をもとに、幅広く経営コンサルティング活動を行う一方、精力的な講演活動を行っています。諏訪信用金庫ユースクラブは、約20年前から毎年末にお招きし、翌年の経済見通しなどをお話いただいています。

「5月上旬に経済は一旦底を打ったが、回復途上の日本経済」

諏訪の地域でも新型コロナウイルスの影響が大きく出ていることと思います。今回からこのコラムを受け持つことになったことをうれしく思っています。皆さんも、現状や日本経済の先行きをとっても心配されていると思います。今回は、日本経済の現状を数値を使って説明します。結論から言うと、日本経済は、4月末か5月上旬に非常に深い底を打ち、そこから回復途上ですが、コロナが続く限り、まだまだ先は厳しい。しかし、何とか頑張っているというところです。

まず、経済全体を見てみると、4-6月のGDP(国内総生産)は、実質値で年率28.1%のマイナスです。こんなに大きなマイナスはまずありません。国内総生産は、国内で作られ付加価値の合計で、皆さんの会社でもそうだと思いますが、作り出した付加価値の中から払い出す項目で、一番大きな大きなものは、給与でしょう。GDPは給与の源で、国全体で見た場合には、GDPの半分以上が給与として家計に分配されています。それが、四半期とはいえ、年率で30%近くも落ちたわけですから、これがとても大変な状況だということは容易に想像がつかます。

業界別に見た場合には、とくに、ホテル・旅館、航空、鉄道、タクシーなどとともに、飲食業やイベント関連が大きな打撃を受けています。

それでは、もう少し、詳しく状況を見ていきましょう。先ほども述べたように、私は4月末から5月上旬にかけて、日本経済は非常に深い底を打ったと考えています。

この状況を端的に表しているのは、「街角景気」でしょう。「景気ウォッチャー調査」ともいわれますが、タクシーの運転手、小売店の販売員、中小企業経営者などに各地で内閣府が調査をして指標化しているものです。50が良いか悪いかの基準です。

昨年10月の消費税増税後の数字も50を大きく切って悪かったのですが、コロナウイルスの影響が出始めた2月に、27.4と大きく落ち込みました。その後、3月には、この統計を取り始めた2002年以来最低の14.2まで下がりました。リーマンショックや東日本大震災直後よりも悪化したのです。4月にはさらに下がって7.9と悲惨な状況でしたが、5月は、非常に悪い数字ながらも、15.5に戻りました。つまり、最悪の状況が続いていながらもわずかですが反転したのです。

そして、その後の数字を少し注意深く見てください。緊急事態宣言が5月25日に解除されて以降、制限があるものの飲食店が再開し、百貨店も開店しました。6月が38.8、7月が41.1、そして8月が43.9です。

先ほども述べたように、50が良いか悪いかの基準ですから、まだ、十分ではないのは明らかなのですが、徐々に、経済の最前線にいる人たちの景況感は回復しているのが分かると思います。

また、諏訪地方には比較的多い製造業の状況を端的に表す「鉱工業生産指数(2015年=100)」も、全国的に見た場合、ほぼ同様の動きをしています。5月が底で、6月、7月とわずかずつですが回復の傾向を見せています。ただし、製造業の回復は現状、それほど強くはありません。

こんなときに必要なのは、ケンタッキー・フライドチキンの創業者のカーネル・サンダースの言葉だと思います。それは、「できることはすべてやれ、やるなら最善を尽くせ」です。彼は、65歳からフライドチキンのフランチャイズビジネスをスタートし、最初は1000軒回ってすべて断られたそうです。もちろん、この言葉は、いつでも必要なものですが、とくに、今のように本当に大変な時期には、リーダーはこの言葉を念頭に、前向きな気持ちを持ち続けることが必要ではないでしょうか。

	街角景気 (=景気ウォッチャー調査)	鉱工業指数 (2015=100)
	景気の現状判断DI (季節調整値)	生産指数 (季節調整値)
2019年9月	46.6	102.4
10月	36.9	98.3
11月	38.8	97.7
12月	39.7	97.9
2020年1月	41.9	99.8
2月	27.4	99.5
3月	14.2	95.8
4月	7.9	86.4
5月	15.5	78.7
6月	38.8	80.2
7月	41.1	86.6
8月	43.9	
(出所)	内閣府	経済産業省



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>